

駐車スペースの分布の変遷から商店街の活性化を考える

1年1組 福鹿 巴音 1年1組 今西 未来 1年1組 則松あかり
1年1組 久松明日香 1年1組 福島さおり 1年1組 梅崎 美冬
指導者 田中 善久

1 課題設定の理由

およそ30年間の宇和島商店街近隣の駐車スペースの分布を調査して、商店街の集客アップにつなげる提案をする。

2 研究の方法

- (1) 1985年から2016年までの間で、約5年ごとに宇和島商店街近隣の地図（写）を用意する。
- (2) 地図（写）上に、有料駐車場を赤、無料駐車場を青、空き家を緑に着色する。なお、それぞれの駐車スペースについて、地図上で識別できない場合は、有料、無料、空き家の区別は現地に出向いて調査する。
- (3) 各時期の有料パーキング、無料パーキング、空き家の数を数え上げる。
- (4) 駐車スペースの分布の変遷の特徴を考察する。

3 結果と考察

- (1) 1985年から2016年までの宇和島商店街近隣の駐車スペースの分布について図1にまとめた。



図1 駐車スペースの分布

- (2) 1985年から2016年までの宇和島商店街近隣の駐車スペースの数について表1、図2にまとめた。
- (3) 1985年から2016年までの宇和島商店街近隣の駐車スペースの分布の特徴についてまとめると以下の3点があげられる。
- 図2より、1985年から1999年までの商店街には空き家は少なく、現在より賑わいがあったと考える。2006年以降は空き家の数が急激に増えている。
 - 図2より、商店街近隣の駐車場の数は、1985年から1999年までは変化がほとんど見られない。その理由として、1999年以前では、商店街を訪れる人々の移動手段は、主にバスやJR等の公共交通機関であったと推測する。
 - 図2より、商店街近隣の駐車場の数は、2006年に無料駐車場が大幅に増加し、2011年にはその無料駐車場が激減する一方で、有料駐車場の倍増が起こる。図1の地図を細かく分析すると、2006年以降の無料駐車場と有料駐車場の数の合計はほぼ一定であり、「無料駐車場は有料駐車場に代わる傾向」と「無料駐車場は細分化して点在する傾向」が見られる。店舗が所有しない駐車場の場合、無料駐車場は有料駐車場に代わることが多い。店舗が所有する駐車場の場合、その駐車場はさほど小さくなくてよく、店舗の近くに必要なので、無料駐車場は細分化して点在していくと考える。

表1 駐車スペースの数

	有料P	無料P	空き地
1985年	14	10	8
1991年	16	8	14
1995年	17	8	9
1999年	21	10	8
2006年	18	26	58
2011年	39	2	21
2016年	28	13	52

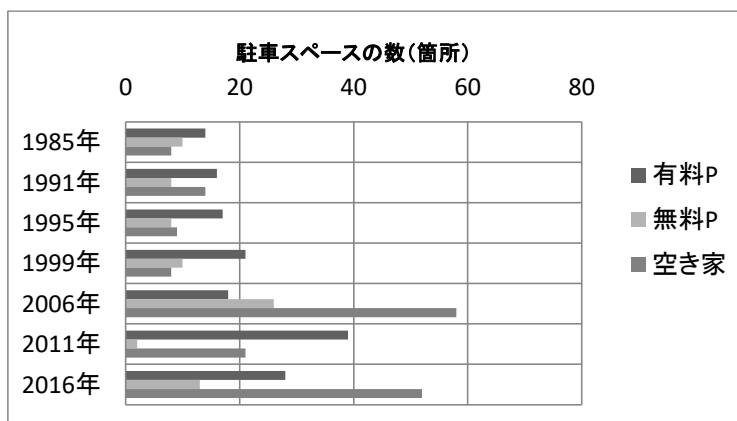


図2 駐車スペースの数

4 まとめ (提案)

1991年以降、広い無料駐車場を兼ね備えた郊外にある大型量販店が次々に出店されたことが、商店街の集客ダウンの主な原因であると考えられる。その影響が図2の2006年以降に見られる駐車スペースの数の増加に表れていると考える。

宇和島商店街の集客アップを図るためには、近隣に無料駐車場を併設させるとよいと提案する。ただし、商店が密集する地域であるので、図3の郊外にある大型量販店のように、広い駐車場の併設は難しい。そこで、図3の駐車場と同じ面積の駐車場でも立体駐車場にすれば建設が可能であり、無料にするには、商店街独自にチケットを提供するなど工夫があれば実現可能である。なお、商店街近隣の住人、特に高齢者にとって、鉄筋性の高層の建造物は津波被害から身を守るために避難場所として災害時に有効利用できることも加えたい。



図3 大型量販店の無料駐車場

参考文献

- ・『ゼンリン住宅地図』(2006) 株式会社ゼンリンプリントテックス p.63
- ・ゼンリン住宅地図 https://zapl.znet-town.net/znettownm/sp/service_introduce?cr=d